

# VOL.39 2018 SPRING



2017年10月29日 野田建築50周年大同窓会の卒業アルバム写真展 於：コミュニケーション棟



2017 年 10 月 29 日 野田建築 50 周年大同窓会懇親会



参加者集合写真

## 野田建築 50 周年大同窓会を終えて

野田建築会会長 山崎晃弘 (1976 年卒 上原研)

野田建築 50 周年記念事業にご協力いただきました皆様には厚く御礼申し上げます。

野田建築会は 2016 年より、理工学部建築学科が立ち上げた「野田建築 50 周年記念事業実行委員会」に参画し、「ホームカミングデー 2017 (校友祭)」と同時開催となった「理工学部創設 50 周年記念事業」の一環として、大同窓会イベントを企画いたしました。

続いて 2017 年より野田建築会部会として参加した理窓会

「ホームカミングデー 2017 企画実行委員会」からホームカミングデーの詳細な情報を得て、大同窓会当日のイベントとして、13 号館にて三分一博志氏 (1992 年卒初見研) による記念講演会、講義棟にて企業 OB 会展示会 (7 社)、コミュニケーション棟にて卒業アルバム写真展、記念デザインコンペ表彰式と大同窓会懇親会を、建築学科と合同で実施いたしました。

開催当日は強い台風の影響もあり、ホームカミングデーの来場者は例年の 6 割 (6 千名) 程でしたが、大同窓会懇親会は卒業生のほか来賓の旧教員を含め約 320 名の出席者で盛況のう

ちに終わることができました。

大同窓会にあたり、それぞれの参加者はそれぞれの心情で一堂にあつまり、恩師や旧友との再会、そして野田キャンパスの再見が叶ったのであれば幸いです。

なお、野田建築 50 周年記念事業実行委員会を総括された永野正行教授と岩岡竜夫教授、それを支えた全ての助教の方々には心より感謝いたします。

加えて、多くの卒業生が実行委員としてこの記念事業に携わ

り、とりわけイベント実施や広報活動に尽力された涌井、栗飯原、高安 (以上、副会長)、五十嵐 (事務局長)、菱崎、出塚、佐久間、大野 (以上、常任幹事) の野田建築会幹部諸氏には改めて謝意を表します。

最後に、50 周年記念事業にご協力いただきました皆様には重ねて厚く御礼を申し上げるとともに、ますますのご健勝をお祈り申し上げます。

併せて、母校の今後さらなるご発展をお祈り申し上げます。



野田建築 50 周年大同窓会・各研究室集合写真



会長による乾杯



上原研



重倉研・兼松研



吉澤研



奥田研



岩岡研



齋藤研・武田研



井口研



三浦研・初見研・垣野研



星野研・小嶋研



永野研



北村研



安原研



大河原研・渡邊研・伊藤研



富澤研・野村研・中田研・衣笠研



森脇研・戸川研・川越研・若松研



山名研



堀川研・川向研



井上研



大宮研



## 野田建築 50 周年大同窓会開催までの経過

涌井栄治 (1985 年卒 井口研)

50 周年事業の実施に携わらせていただいた幹事の一人として、本事業の経過をまとめておきたいと思います。

野田建築会 (NAA) で理工学部創設 50 周年事業の検討が始まったのは、野田建築会第 9 回総会 (2014 (平成 26) 年 5 月 24 日開催) にて立ち上げられた理工学部 50 周年事業実行準備部会 (部会長 山崎晃弘 / 現 NAA 会長) からであった。理工学部が 2017 年に創設 50 周年 (1967 (昭和 42) 年理工学部創設) を迎えるので、記念事業の準備・検討をする目的で立ち上げられた。1 年後の 2015 年 4 月には事業実行部会と改称され、OB・OG からの実施協力者の増員が図られ、実現に向けてより活発に活動していくことになった。さらに、2015 年 12 月、当時理工学部学部長であった北村春幸教授、当時建築学科主任であった永野正行教授と野田建築会役員との打ち合わせが行われ、その際に、北村教授より、理工学部でも 50 周年事業の企画の一つとして各学科でも何かしらの企画が求められており、建築学科が他の学科よりも率先して動いていきたいということで、それ以降、建築学科教室と野田建築会が協力して 50 周年記念事業を企画実行していく運びとなっていた。学科側は永野教授が、野田建築会側は山崎部会長がその任に当たった。

手始めとして、年が明けた 2016 年 1 月 9 日、実行委員会のプレ委員会がポルタ神楽坂にて行われることになる。出席者は、北村教授、永野教授、大宮教授 (前建築学科主任) の大学側教員 3 名と、OB・OG 7 名であり、北村教授からの大学側のこれまでの経緯説明を皮切りに、記念事業の目的・内容・今後の開催方法などについて話し合われた。2016 年 3 月に第 1 回本委員会を開催する予定を決めて、委員候補の選出、参加のお願い、委員会のたたき台作成が、委員会幹事により急ピッチに行われた。

苦労の甲斐あって、予定通り 2016 年 3 月 5 日 (土) に第 1 回委員会がポルタ神楽坂にて開催されることになる。大学側は北村教授、永野教授を始めとする現教員 6 名、OB・OG は初代卒業生を含めて様々な業種の方々 25 名 (計 31 名) の出席により開催され、今後の方針、スケジュールなどが話し合われた。最大イベントの大同窓会企画が行われるまで、実行委員会は計 9 回開催された。詳細な企画・検討は各ワーキンググループ (WG) に分かれて行われ、幹事会で調整後、実行委員会で報告・承認という形式で進められた。

50 周年記念事業の柱企画としては、設計デザインコンペの実施、記念誌の作成、大同窓会企画・懇親会となった。50 年建築 IT 教育講義の充実、OB・OG 名簿情報の整理などが行われた。また、学科からの情報発信の場として、東京理科大学理工学部建築学科ホームページ (<http://www.ar.noda.tus.ac.jp/>)

がリニューアルされ、建築学科の教員、OB・OG からの情報が逐次発信できる体制が整えられた。

設計デザインコンペ《利根運河 夢の架け橋》は、大学脇を流れている利根運河に新たに掛ける歩行者専用架橋の提案をするものです。計画地は運河駅と大学間に架かっているくふれあい橋と国道 16 号線のく柏大橋のほぼ中間に位置する流山市エリアで、コンペ最優秀案は、流山市担当部局における計画案の一つになるというものでした。最終審査は、建築学科学生ボランティアによる地域に根付いたイベントく利根運河シアターナイト 2017 と同日の 2016 年 9 月 23 日 (土) に行われました。デザインコンペの結果は、NAA 会報 Vol.38 に掲載されています。

50 周年記念誌「UNGA NEXT」には、理工学部建築学科 50 年間の系譜、退職された先生方のインタビュー記事、2017 年 4 月～5 月に行われた 4 名の卒業生による特別講演録、大同窓会にて特別講演をしていただく三分一博志氏のインタビュー、60 名の卒業生からの寄稿、卒業設計・修士設計・成績優秀者一覧、50 周年記念設計デザインコンペ結果、現在活動されている 12 研究室の活動紹介・今後の 50 年に向けてのメッセージ、現役学部・大学院生を対象としたアンケート結果など、盛り沢山の記事が掲載されている。また、記念誌発行に際しては協賛金の募集 (企業広告・個人名刺交換) も行われた。

野田建築 50 周年大同窓会の開催日は、東京理科大学の同窓会「理窓会」主催のホームカミングデー 2017、理工学部主催の創設 50 周年記念式典と同日の 2017 年 10 月 29 日 (日) に行うこととした。当日は、建築家・三分一博志氏 (1992 年卒、初見研) による特別講演、記念デザインコンペ作品展・表彰式、野田建築・企業 OB 会パネル展示 (竹中工務店、鹿島建設、大林組、大成建設、清水建設、佐藤総合計画、高砂熱学)、設計優秀賞パネル公開、利根運河シアターナイト展、学生模型展示、研究室紹介、歴代卒業写真展、懇親会と盛り沢山の企画が行われるに至った。

2016、2017 の手帳には、50 周年記念関連の委員会・幹事会・ワーキンググループ (WG) が記録されています。私が関係した会合ですが、実行委員会 10 回 (プレ会を含む)、幹事会 22 回、その他に WG だけの集まり 5 回の記録がありました。他の部会の会合は不明ですが、他の部会の方も 50 周年記念事業の成功に向けて多くの時間を費やしていただいたことと思います。50 周年記念事業が無事に終了し、委員長の永野教授を始めとする建築学科の現教職員・現役学生の皆様、各委員、ご参加・ご協力をいただいた旧教職員、OB・OG の皆様、各企業の方々に感謝いたします。



## 三分一博志氏 記念講演会「建築は未来への手紙」の報告

理工学部建築学科 准教授 垣野義典 (1999 年卒 初見研)

理工学部建築学科 50 周年を記念して、10 月 29 日 (日)、「建築は未来への手紙」と題した三分一博志氏の基調講演が行われた。

氏は、現在三分一博志建築設計事務所を主催し、デンマーク王立芸術アカデミーの客員教授も勤める。“人工物である建築が、土地ごとの地形や自然の循環システムに沿うことで、年月の経過とともに自然の風景と感じられるようになっていく”、“いかにして建築が地球の一部になるか”、を一貫したテーマとし「地球のディテール」を提唱。都心部で活躍する建築家が多いなか、瀬戸内を中心にすばらしい建築作品を発表し続け、大きな賞を多数受賞している。特に 2011 年、2017 年に受賞した日本建築学会賞作品賞は日本最高峰の建築賞であり、かつ過去に重賞した例がほとんど無い中での受賞である。

講演で紹介された作品はどれも美しく、視認困難な自然の現象に対し、執拗なりサーチによってにじり寄っていく建築家の姿が描き出されていた。

犬島アートプロジェクト「精錬所」(岡山県邑久郡) は、瀬戸内国際芸術祭 2010 の施設の一つとして設計された。既存の煙突や煉瓦など元から有った資源と、太陽や地熱などの自然エネルギーを利用した環境に負荷を与えない設計が光る。「遺産、建築、アート、環境」による循環型社会を意識した作品であった。直島ホール (香川県香川郡) は盛り土の上に埋めこみ、夏場は冷却、冬場は暖められた空気が床下から出てくるよう、盛り土の地熱と外気の温度差を活用している。設計のために 2 年半近く敷地や島周辺のリサーチを積み重ね、直島特有の風の方向や特性を読み解いた結果を設計に活かした労作でもある。この 2 年半のリサーチのなかで、民家と島の風向きにある法則を見つけ出した本候補者は、「400 年前からの手紙を受け取った」と思ったという。そして「ここから 400 年先の人々へ手紙を送る」つもりで設計に臨んだという発言に、建築家として建築を設計することへの責任感の強さがにじみ出ている。

### 三分一博志プロフィール

1968 年 生まれ

1992 年 東京理科大学理工学部建築学科 卒業 (初見研)

小川晋一アトリエを経て、現在、三分一博志建築設計事務所主催



当日は TOTO 出版の協力をえて、三分一氏によるサイン会も行われた。



広島市で竣工した折りづるタワー



『企業OB会による展示ブース』を、講義棟403教室で開催しました。理科大の建築学科を卒業したOB/OGが、建築関係の企業でいかに活躍しているかを紹介しつつ、主に在学生の皆さん向け企業PRを兼ねての展示ブース構成としました。

参加企業を有志で募り、佐藤総合計画（設計事務所）、大成建設・鹿島建設・清水建設・大林組・竹中工務店（ゼネコン）、高砂熱学工業（設備）の7社となりました。企画準備期間の当初は、同業他社の集まりのため、三者三様の意見がありましたが、理科大建築学科同窓仲間の企画ということで、展示レイアウトに統一性を持たせようとの意見でまとまりました。結果、企業コーポレートカラーを使った統一パネルデザインでの展示構成となりました。

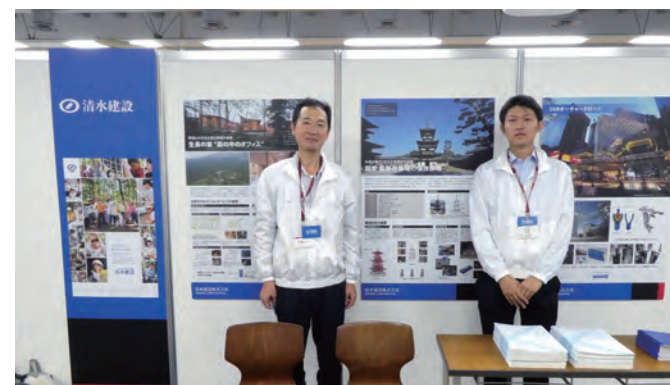
当日の展示では、各社より複数名の説明者を付けて、来場者対応をしました（各社ブース写真参照）。早朝からの準備を経て、10時から展示を開始、終日来場者が途絶えることなく、生憎の雨天ではありましたが、想定以上の盛況ぶりでした。建築学科の先生方の計らいで、学科3年生（約150人）は、見学レポート提出という課題を与えられていたようです。説明者がOB/OGということ、かつ、昨年までは大学院生だったのに今年は（就職して）説明する立場のOGもいました。説明者が大学の先輩ということで、学生側にとっては質問しやすい雰囲気のように、自分の就職に対する想いを熱心に意見交換している場面もみられました。説明者は、実際の会社業務や自身の会社での苦労話を紹介したり、1日中ほぼ立ち放しで、懇切丁寧な対応をしていただきました。（普段なれないことなので、かなり負担が大きかったと察します）

パネル展示内容は、OB/OG活躍紹介の他、自社の最先端技術や施工実績紹介、建築コンペ応募に使用した実際の模型展示等、それぞれに特色あるものを展示していました。来場者、特に学生たちは、大学授業では知りえない“プロの技”を見聞きする絶好の機会を得たのではと感じています。後日、レポートを拝見してもらいましたが、学生の一人一人の見方に趣があり、ゼネコンや設計事務所就職への希望を膨らませた意見や、ピンポイントでのパネル展示に興味をもち、その内容を手掛かりに深く企業を調べてみた等々がありました。

今回、野田建築50周年の一つのイベントとして、企業展示ブースを開催しましたが、準備から当日対応までご尽力された同窓の方々をはじめ、関係された皆様に深く感謝いたします。今後も、このように同窓の結束力を生かし、大学・学生支援をしていきたいと思います。



佐藤総合計画ブース



清水建設ブース



竹中工務店ブース



大成建設ブース



大林組ブース



高砂熱学工業ブース



鹿島建設ブース




NAAブース（会報表紙一覧）



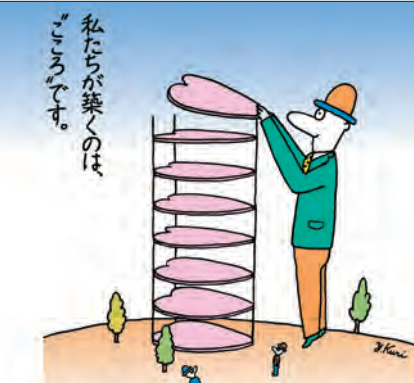
パネル展状況

高める、つくる、そして、支える。



**熊谷組**

私たちが築くのは  
この空です。



～トータルリニューアルで  
“より快適な空間へ”～

**K&E**

ケーアンドイー 株式会社

空を壊さない、  
空気をつくれ。



www.tte-net.com



この技術で、この星を。  
環境ソリューション。

**TakasaGo!**





外観パース

昨年11月28日、12月5日の2回にわたり、大学からほど近い流山インターチェンジ脇で弊社東急建設が設計・施工中のGLP流山（大型物流施設）の見学会を行いました。

GLP流山は先進的物流施設のリーディングプロバイダーである日本GLP株式会社（以下「GLP」）が開発する総延床面積約320,000㎡のマルチテナント型およびBTS型に対応した大型物流施設です。GLP流山はGLP流山I、II、IIIの3棟から成り、2016年夏から順次着工、2018年内の竣工予定、総開発コストは約590億円です。また、GLPとして初の試みとして、「GLP流山」は通常の倉庫機能のほか、工場用途にも対応可能であり、この3棟で生産/製造、梱包、配送までを網羅し、サプライチェーンの統合を目指すフルパッケージの施設となります。

今回見学したのは、GLP流山Iで3棟並ぶ真ん中に位置し、地上4階・塔屋1階で1フロアが200m×170mと非常に大きく、構造形式は鉄筋コンクリート造（一部鉄骨造）となっています。この現場では積極的に現場サイトでのPC化を行っていること、事業継続性（BCP）対応として杭頭免震構造を採用していることが大きな特徴でしたので、そこを重点的に見学しています。また、設計段階から施工及び運営に至るまでBIMを積極的に使用するとGLPの意向もあり、設計図、施工図及び施工計画は全てBIMを使用して作業を行っていますので、BIMでどの程度のことが出てくるのかを合わせて体験していただきました。

第1回目11月28日は野田建築会役員4名と現役の女子学生2名の6名です。打設中のPC接合部やピットに入って杭頭免震部を中心に見学しました。BIMによる現場のバーチャル体験を行



前面道路からの外観

いましたが、眼鏡を掛けて完全にその仮想空間に入って恐る恐る歩いている体験者の姿を、廻りから見守っている人達の笑っている姿が印象的でした。

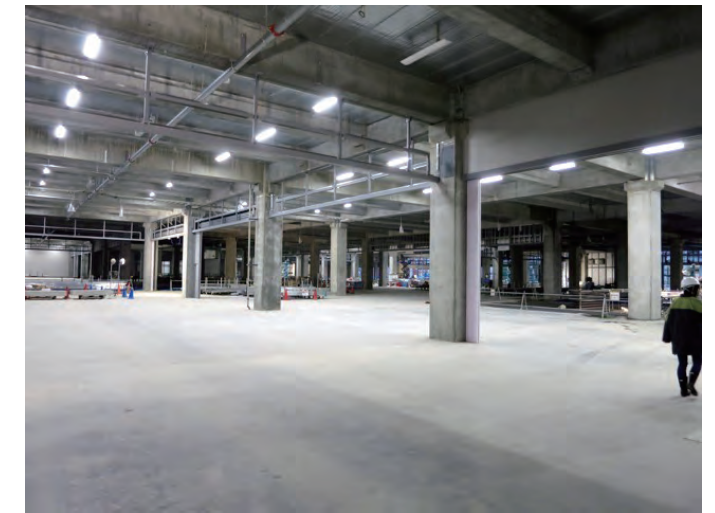
第2回目12月5日は施工計画の授業の一環として兼松教授、西尾助教、現役学生26名の28名が内装工事を行っている現場の見学会となりました。私が学生だった頃の約30年前とは違い、女子学生が非常に多いことや留学生もいることが印象的です。見学を終えての質問においても、学生の皆さんから積極的に質疑が寄せられました。その内容も免震構造の芯材の材質、交換方法など私たちが現場定例で議論してきた専門的なことや、現場生産性の工事原価に関わることまで、作業所長も回答に詰まる内容もあり、今の学生の風貌からは想像が出来ない



ランプの内観

くましさを感じました。

見学会を通じて沢山のOBや学生といろいろな意見交換ができたことが非常に有意義でした。これからも大学との関係を大



倉庫の内観

切にしていきたいと思っています。最後になりましたが見学会のBIMプレゼンのご協力をいただきましたOBでペーパーレスジャパン代表の勝目さんにお礼を申し上げます。



見学会風景

**1級建築士試験**

**No.1**

全国

ストレート合格者占有率

合格者占有率

東京理科大学 平成29年度 卒業生合格者108名中当学院当年度受講生70名 合格者占有率 **64.8%**

※全国合格者数および卒業生学校別合格者数は、(公財)建築技術教育普及センター発表に基づきます。  
※総合資格学院の合格実績には、模擬試験のみの受験生、教材購入者、無料の役務提供者、過去受講生は一切含まれておりません。

**1級建築士を1年で取得するなら総合資格学院**

平成29年度 **1級建築士** 設計製図試験

全国 **ストレート合格者占有率 70.7%**

全国ストレート合格者 1,564名中  
当学院当年度受講生 1,105名  
<平成29年12月21日現在>

平成30年度 **全国ストレート合格者全員を100%** ストレート合格者占有率

目標 **総合資格学院現役受講生で!**

開講講座 | 1級・2級 建築士/建築施工管理/土木施工管理/管工事施工管理/構造・設備設計1級建築士/宅建士/インテリアコーディネーター/建築設備士

学院長:岸 隆司

**総合資格学院**

全国約90拠点

柏校 TEL.04-7168-9111 柏市中央1-1 柏セントラルプラザ 業務棟 5F

総合資格 検索 Facebook「総合資格 柏」で検索!

スクールサイト [www.shikaku.co.jp](http://www.shikaku.co.jp)

コーポレートサイト [www.sogoshikaku.co.jp](http://www.sogoshikaku.co.jp)

法定講習 実施中 一級・二級・木造建築士定期講習 / 管理建築士講習 / 第一種電気工事士定期講習 / 監理技術者講習 / 宅建登録講習 / 宅建登録実務講習





## 合同新年会報告

第3回築理会・野田建築会合同新年会が2018年1月17日神楽坂キャンパスにて開催されました。出席者は築理会48名と野田建築会18名、総勢66名でした。



## 三分一博志氏 第20回坊ちゃん賞受賞

2018年1月6日、理窓会新年茶話会にて三分一博志氏（1992年卒 初見研）が第20回坊ちゃん賞を受賞されました。

受賞理由：人工物である建築が、年月とともに、いかに自然の風景の一部となるかを一貫したテーマで研究。日本建築大賞や日本建築学会賞作品賞を2度受賞するなど国内外の評価も高く、東京理科大学の名声を高めた。

## 【2018年イベント情報】

第11回定期総会（予定：詳細は追って配信メールまたはHPやFBでご確認ください。）

日時 6月2日（土） 17:00～受付、17:30～定期総会 於：PORTA 神楽坂・会議室  
19:00～懇親会 於：PORTA 神楽坂・理窓会倶楽部

野田建築会創設20周年記念会（仮称）

（予定：詳細は追って配信メールまたはHPやFBでご確認ください。）

日時 今秋11月予定 於：野田キャンパス

## 会費納入のお願い

NAAでは会則により、2018年度（2018年4月1日～2019年3月31日）の普通会員年会費として3,000円を徴収しています。これらは会報の発行、OBと語る会の開催、見学会等の研修、NAA賞の授与、NAAサイトの維持その他NAAの活動に有効に活用されています。こうしたNAAの運営に向け、同窓生の皆様のご理解とご協力をいただき、同封の振込用紙にて会費納入をお願いいたします。（お手数ですが、納入者確認のため、振込用紙には卒業年を必ずご記入ください）

※会費納入がない場合は、今号を最終発送とする場合があります。  
（注）年度会費の二重払いを避けるため、ご不明の場合は右記HPでお問合せください。

野田建築会会報 VOL.39 2018 SPRING

2018年3月1日

編集：会報部会（とりやま あきこ / 山崎 晃弘）

発行：東京理科大学野田建築会

郵便振替 口座番号 00130-9-27644 東京理科大学野田建築会

お問合せおよびメルマガ登録はこちらから——

<http://www.rikadaikenchiku.com>